

— 支える医療 —

訪問診療科長 副院長 黒田 琢磨



突然ですが、皆さんは「最後の時間をどこで過ごしたいか」「最後の時をどこで迎えたか」なんて考えたことはありますか？

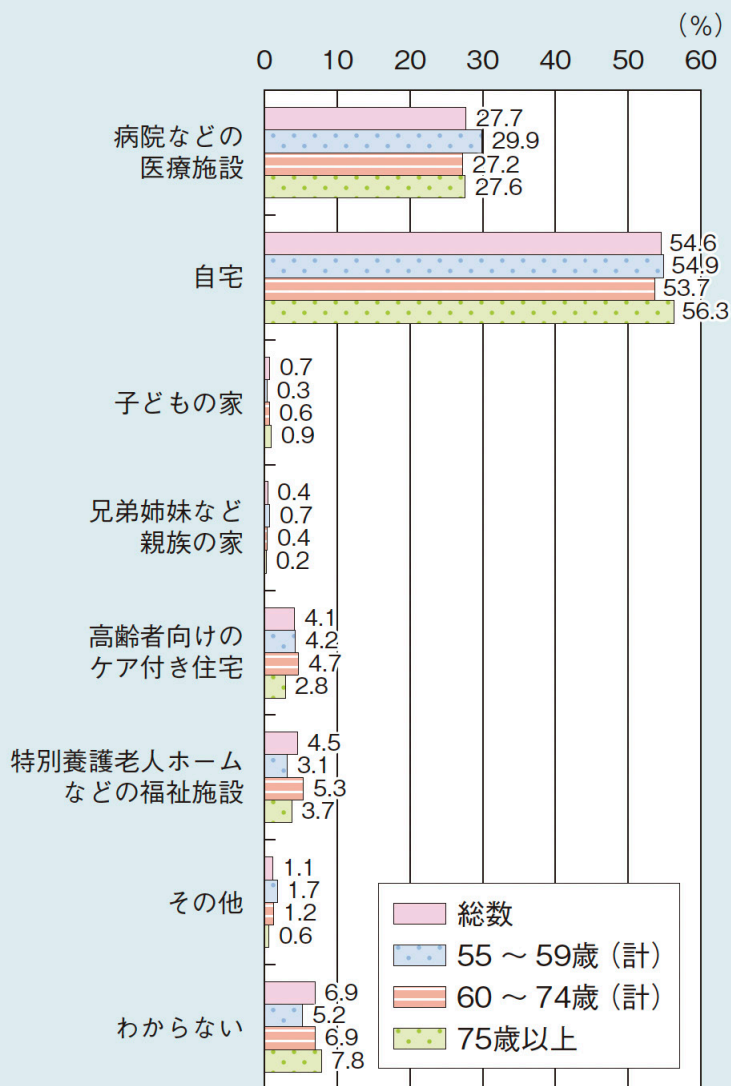
2013 年度内閣府高齢社会白書の高齢者意識調査によると、**最後を迎えたい場所は 55 歳以上のすべての階層において「自宅」が最も多く約 55%、次いで「病院などの医療機関」が約 30%、次に介護施設等、との結果でした。**実際には病院で亡くなる方が約 7 割を超えていますので、なかなか希望通りにはならないのが現状かと思われまます。私も（今のところ）最後は自宅で過ごしたいな、と思っておりますが、その時の本人の希望・体調（病状）・家庭その他本人を取り巻く周囲の状況がうまく合致しないと難しいのかもしれない。

2000 年にスタートした介護保険制度は約 3 年に一度の割合で改正を重ね、現在さまざまな介護福祉サービスに関して浸透しつつあると思えます。介護保険制度スタート以前は

市区町村等自治体が主となりサービスを提供しており（措置制度）、利用者や家族の意向が汲まれる事はあまりなかったのですが、今では可能な限り利用者の希望や状況に沿うような形でサービスが提供できているのではないのでしょうか。介護保険で受けられるサービスには、訪問介護や通所介護などの在宅系、特別養護老人ホーム（特養）や介護老人保健施設（老健）などの施設系、小規模多機能型居宅介護などの地域密着型、また訪問入浴サービスなどもあり、もちろん要支援・要介護度によって受けられるサービスの内容は変わりますが、選択の幅は広がると思います。



高齢者意識調査 最後を迎えたい場所



資料：内閣府「高齢者の健康に関する意識調査」（平成 24 年）
（注）対象は、全国 55 歳以上の男女

あまり考えたくもないような事柄ではありますが、こればかりは避けて通れません。ご自身の、あるいはご家族の人生の終末期に関して思いを巡らせる事も必要かもしれません。

当院訪問診療科でも、通院が困難となった方がご自宅で安楽に過ごせるよう在宅療養のお手伝いをしております。介護等でお困りのことがあればお気軽にご相談ください。

